

国語 第2学年 組み立てを 考えて 書き、知らせよう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「組み立てを 考えて 書き、知らせよう」教材名「こんなもの、見つけたよ / 【コラム】丸、点、かぎ」

2 単元の目標

句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕(1)ウ)自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(B(1)イ)見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

見付けたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする。この教材では、紹介の材料カードと順序を見直した文章を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師作成の短い紹介文で順序の違いを比較する。本人の材料を消さず、今回の文章に使う物だけ選ばせる。想定する難しさは、見付けた順にすべて並べ、紹介の中心が曖昧になる。評価では、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えているかを、紹介の材料カードと順序を見直した文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～5時：○紹介する物の名前、見付けた場所、特徴、自分の考えを材料カードにする。必要な語や材料を集め、関係を整理する。評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第6～9時（本時）：○紹介する物の名前、見付けた場所、特徴、自分の考えを材料カードにする。順を替えて読み比べ、相手に伝わる構成を選ぶ。句読点とかぎの使い方も確認して文章を直す。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第4次 第10時：○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（6／10）

（1）本時の目標

自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（B(1)イ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「読み手は、何を先に知ると紹介するものを想像できますか」

【めあて】見つけたものを紹介する内容を選び、順序が分かる文章にする。

予想される児童の反応：・名前が後だと何の話か分かりにくい。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「読み手は、何を先に知ると紹介するものを想像できますか」

紹介する物の名前、見つけた場所、特徴、自分の考えを材料カードにする。順を替えて読み比べ、相手に伝わる構成を選ぶ。句読点とかぎの使い方も確認して文章を直す。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・名前が後だと何の話か分かりにくい。

・話した言葉と説明を分けたい。

指導上の留意点：教師作成の短い紹介文で順序の違いを比較する。本人の材料を消さず、今回の文章に使う物だけ選ばせる。

想定する難しさ：見つけた順にすべて並べ、紹介の中心が曖昧になる。

評価では、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えているかを、紹介の材料カードと順序を見直した文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

紹介の材料カードと順序を見直した文章を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・話した言葉と説明を分けたい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「読み手は、何を先に知ると紹介するものを想像できますか」。中央は、紹介の材料カードと順序を見直した文章に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

